

白山市に県内7女性会が集う

令和5年度 石川県商工会議所女性会連合会 第23回会員大会が開催されました

令和5年7月5日（水）石川県商工会議所女性会連合会第23回会員大会が白山市「グランドホテル白山」にて開催されました。県内各地より女性会会員142名が参加しました。来賓には西垣淳子石川県副知事、田村敏和白山市長、淵田昭彦白山商工会議所副会頭、竹内茂白山商工会議所専務理事をお迎えしました。

藤田喜美子白山商工会議所女性会会長の開会の辞に続き「商工会議所女性会の歌」を斉唱し「商工会議所女性会活動指針」の唱和が行われました。

小新雅子県連会長による挨拶では、能登地震に被災された珠洲の皆さまへの思いや、これからの復興への励ましが話されました。

来賓の西垣淳子石川県副知事の挨拶では「日本の産業が弱くなっていく現実に対し日本の産業を強くするには地方が強くならなければならないという思いがあります。自分のやりがいはこの石川県という場所がチャンスを与えてくれたと思えました。女性の活躍する社会はジェンダー平等の考え方や男女共同参画社会の観点からも必要です。石川県の企業との対話を通してこれまで以上に寄り添った伴走型支援を行います。行政サービスのデジタル化においても19の市や町、警察、教育委員会などを巻き込んだ一体的な取り組みにより日本一住みよい石川県の魅力を高めていきたいと思えます。」と話されました。



上:黄色のスカーフを着けてお出迎え。
下:活動指針の唱和

田村敏和白山市長の挨拶では「5月に白山手取川ジオパークが日本で10か所目となるユネスコ世界ジオパークに認定されました。前山田市長がよく口にしていた『ジオパークは人』という思いと、この大切な遺産を活用した教育の推進や地域経済の発展、世界とのつながりをしっかりと支える活動を盛り上げていくこと、その地域に生きる人達にとっても住みやすく優しい白山市にしていく。」と話されました。

淵田昭彦白山商工会議所副会頭の挨拶では「女性会活動の発展と親睦が深まることにより女性の持つしなやかな発想がより地域に生かされることを期待します。」と話されました。

大会では、今年度の県連役員を紹介に続き令和4年度事業報告・収支決算、令和5年度事業計画・収支予算が報告されました。

嵐清美小松商工会議所女性会会長の閉会の辞により会員大会は終了しました。

石川県商工会議所女性会連合会 会員大会の開催にあたり、多くの会員の皆様にご参加、ご協力をいただきました。おかげさまで無事に大会を終えることが出来ました。ありがとうございました。

記念講演会

ベンチプレッサー宮本智子氏が登壇

大会に続いて行われた記念講演会では、「ベンチプレスを通して続く人生の旅路」と題し石川県パワーリフティング協会副理事長でベンチプレッサーの宮本智子氏が登壇されました。

パワーリフティングには「スクワット」「ベンチプレス」「デットリフト」の3種目があり、ベンチプレスはベンチ台に横になり胸の上でバーベルを拳上する競技です。



ベンチプレス
競技の様子を
スライドで紹介

宮本氏は2005年ジムに入会しました。それは弱い自分を変えたいとの思いからでした。

そこで、ベンチプレス競技に引き合わせてくれた恩師に出会います。その方の誘いで大会に参加したことがベンチプレス競技へ進むきっかけとなりました。スポーツ好きなこともあり、いろいろな競技に興味を持ってチャレンジしましたが、これだ!と思えたのがベンチプレスだったそうです。

恩師は、もともとボディビルの指導者であったことからしばらくはボディビルとベンチプレスの二つの競技を続けましたが世界を目指すため、ベンチプレス1本に絞りました。恩師はボディビルを強く押しましたがベンチプレスを選んだことで、しばらくは恩師との関係は絶たれました。一番辛かった時期でもあったそうです。

競技を続けることに難色を示していた家族も「家事をしっかりやること」「ケガはしないこと」を条件に理解を示すようになりました。

2012年からの3年間に2階級制覇を果たし2019年には、マスターズⅡ(50~59歳)47kg級で85.5kgのバーベルを持ち上げ世界新記録で優勝V4を達成しました。子供たちからは手作りのメダルとケーキでお祝いしてもらったそうです。

幼いころには他のお母さんとは違うことに反発したりしていた子供たちも大人になり働きながら頑張る母の姿を応援してくれるようになったそうです。

最後に宮本氏は、スランプの時、全治2ヶ月のケガ、全活動自粛など辛い思いもたくさん味わいました。やめた方が楽なのに…でも今は続けられることに喜びを感じています。

これからは応援してくれる家族や競技を通して出会った仲間たち、恩師の教えを支えに身体が続く限り続けたいと思っていますと講演を締めくくられました。

2019年よりパーソナルトレーナーとして活動を始めた宮本氏は、今日も家事に仕事にトレーニングに励んでいる素敵な女性です。

白山市にこんな頑張り屋の輝く人がいることにとても誇らしい気持ちになりました。



上:身ぶりを交えての講演
中:会場からの質問に答える
下:宮本氏と共に記念撮影



令和5年度通常総会

県連会員大会へ向けて協力を呼びかけ

令和5年4月27日（木）、松任文化会館ピーノにおいて令和5年度通常総会が開催されました。会員29名参加のもと、来賓には高松会議所会頭、徳田青年部会長、竹内会議所専務理事をお迎えしました。

中村副会長の開会の辞に続き、役員による全国商工会議所活動指針が唱えられました。

藤田会長の挨拶では「5月8日より、新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけを2類相当から、季節性インフルエンザと同等の5類に引き下げられます。これにより日常生活も解放されていきますが、十分に気を付ける必要があります。女性会活動も今年度より本格的に活動を始めます。7月には石川県商工会議所女性会連合会の会員大会が白山市で開催されます。参加される県内女性会の皆さんを私たちにいいおもてなしでお迎えしたいと思っています。会員のみなさまにはご協力のほどよろしく願いいたします。」と話されました。

総会審議にあたり、議長には倉山米穀の倉山久美子さんが選出され、第1号議案 令和4年度事業報告並びに収支決算と、第2号議案 令和5年度事業計画案並びに収支予算案の2議案が提出され賛成多数により承認されました。

高松会頭の祝辞では「コロナの5類引き下げにより、県内にも観光客が戻ってきています。私たちの生活も厳しい状態が続いています。主力の自動車産業では部品不足により自動車が出来ない状況です。カーボンニュートラルにより、電気自動車の普及も広がり、エンジン部品を作るものづくり産業は、今後の動向に注視していく必要があります。」と話されました。

徳田青年部会長からは、「今年度、小松市を中心に青年部の全国大会が開催されます。青年部家族の理解と協力を頂きたい。」と話されました。

北山副会長の閉会の辞により、総会は無事に終了しました。



総会の様子



焔太鼓のお二人

焔太鼓の響き

昼食交流会は弾ける演奏で幕開け

昼食交流会のオープニングには焔太鼓のダイナミックな演奏が披露されました。

焔太鼓の地下朱美氏と浅野響菜氏の女性ならではのしなやかな表現と独特のリズム感は心地良く、気持ちの高揚を呼び込みます。

昼食交流会では堂上頼子県連副会長の乾杯により交流会は始まりました。

今年は国民文化祭が開催されます。七尾市では無名塾と市民による合同演劇「等伯 - 反骨の画聖 -」が公演されるということで、七尾市からの告知がありました。



七尾市から
国民文化祭の告知

竹澤留美子珠洲商工会議所女性会会長の閉会の辞では能登地震の被災の支援に対する感謝が述べられました。思わず涙腺はゆるんでしまいました。

視察研修会では珠洲女性会は(株)明石合銅、加賀女性会は(株)浅野太鼓楽器店、輪島女性会はオリエンタルチエン工業(株)、七尾女性会は共和産業(株)、小松女性会は(株)別川製作所、金沢女性会はホクショー(株)へ。それぞれ視察見学へと出発しました。

白山市での県連大会を無事行うことができました。会員の皆さま、ありがとうございました。

通常総会 記念講演会

「私が魅せられた白山

～ヒノキ細工とジオパーク～」

総会終了後、白山手取川ジオパーク推進協議会の専門員で、ヒノキ細作家でもあるスーザン・メイ氏による「私が魅せられた白山～ヒノキ細工とジオパーク～」と題し、記念講演会が開催されました。

スーザン・メイ氏は、オーストラリア出身、オーストラリアの大学で地質学を学び、2011年来日、アニメや日本文化に興味を持ちました。日本には自分が自然でいられる心地よさを感じたそうです。帰国後、大学で日本語を専攻し、2015年に北九州市立大学の交換留学生として再来日しました。石川県で開催されているジャパンテントに参加し、伝統工芸の良さに触れました。2016年白山市の企業に就職しました。仕事と両立できる伝統工芸に携りたいと思っていた所、友人の紹介でヒノキ細工の伝統工芸士 香月久代さんに出会いました。

ヒノキ細工は、江戸時代から旧尾口村深瀬で継続している伝統工芸です。笠づくりが中心で江戸から昭和初期まで笠は人気商品でした。1979年の手取川ダム建設により、深瀬は水に沈み、村の人たちはそれぞれ別れてしまいました。多くは鶴来近くの深瀬町に移り住みましたが、コミュニティーはなくなってしまいました。笠の需要も減り、作り手も現在は香月久代さんがただ一人の伝統工芸士となりました。

スーザン・メイ氏は、伝統的なヒノキの編み方を利用しながらも、コースターやアクセサリなどの新しい作品を作っています。レジンに閉じ込められたヒノキは輝き、まるで宝石の様だと魅力を語られました。近年は彼女のようにヒノキ細工を習う人も増えてきました。雪深い白山の冬期産業として栄えてきたヒノキ細工もジオパークを構成する一つです。

世界ジオパーク認定直前

白山の魅力をスーザン・メイ氏が語る



ジオパークについて説明するスーザン・メイ氏

2019年よりスーザン・メイ氏は、白山手取川ジオパーク推進協議会の専門員として活躍されています。

講演された4月下旬は、ユネスコ世界ジオパーク認定を目指し、国際大会での発表や各種申請書類や資料の英訳に取り組む多忙な日々を送られていました。

ジオパークとは、ジオは「地球・大地」、パークは「公園」と訳されます。

なぜ、世界認定を目指すのか？ それは、地質遺産の重要性の意識を高めるためです。白山市は霊峰白山を源とする手取川があります。上流では自然が作り出す渓谷美を、中流では豊かな扇状地が広がり、下流では漁港やビーチなど人々の生活を豊かにしています。海、山、里それぞれの地域に異なった食や文化が育ちました。

その地域に住む私たちが自分たちの地域の自然のすばらしさに誇りを持ち、地質資源を保護しながら持続的に利用し、自然災害の影響を軽減する努力など社会が直面する重要課題への意識と理解を高めることが目標とされているからです。

5月にユネスコ世界ジオパーク認定を果たした白山手取川ジオパークに注目が集まっています。スーザン・メイ氏と白山市の更なる活躍を期待しています。

エコキャップ集めてます

ペットボトル飲料のキャップ収集を行っています。産業会館ロビー、商工会議所入り口の横に収集箱を設置しています。いつでもお持ちください。

汚れのあるもの、ペットボトル飲料以外のキャップ、アルミなどの金属キャップは、混入しないように願います。

ペットボトル飲料のキャップ以外はごめんなさい



混入しているものは、受取り出来ません。よろしく願います。